


園だより 1月

起きよ、光を放て、あなたを照らす光は昇り 主の栄光はあなたの上に輝く。
イザヤ書 60 章 1 節


「えがおあふれる いちねんになりますように」



2024 年が始まりました。災害、事故と悲しい年明けとなりました。苦しんでおられる方々が一日も早く平安な日々を取り戻されることを祈らずにはられません。また、災害はいつ何処で起こるか分かりません。どの様な場合でも子どもたちの命を守る備えを怠ってはならないと心を引き締めました。

私事ですが、昨年、今年と 2 年続けて寂しいお正月でした。お節料理の準備もなく、新年を迎えました。2 年目だからでしょうか。今年はなんとも物足りない年末年始でした。子どもとも年中向き 1 月号は「おせち」です。読みながら一つひとつの意味に改めて感心し、今年も作れない寂しさを感じました。私は夫の母が作るお節料理が好きでした。毎年馳走になる時期があり、年老いた姑に代わって作りたいと思う様になり、自分のペースで楽しみながら作って 10 年あまり。近頃はお節料理を作るというと周りの方に驚かれます。「大変ね」と労わられることも。でも実際は焼く・煮る・蒸す・炒める、手順は日常のお料理と何ら変わりません。傷まない様に時間をかけて火を通したり、煮含めたりがひと手間かもしれませんが。それよりもその一つひとつに意義を持たせ特別なこととして位置付け、様々に喧かれながらも平安の時代から途切れることなく令和の時代まで継承されていることを感慨深く思います。

教育・保育もお節料理と同じように思います。あたり前の日常としてときは流れて行きます。その流れに意義を感じ、子どもたちの成長にかけがえのない日々として捉え、より良い成長を願い、共に過ごすことが教育・保育なのではないでしょうか。幼児教育はすぐに結果が出るものではありません。ややもすると目に見え、あたかも良い結果が出ているように見える成果に流されやすい昨今かもしれません。けれども、意義を見いだされ継承されているお正月料理のように、子どもたちが目を輝かせ、自らの力を発揮し、遊び込んでいる今にその先への意義を見だし、だからこそそのかけがえのない日々を大事に過ごす真の教育・保育の継続を、と新年にあたり心新たにしております。



今年も宜しく願い申し上げます。

園長 駿河 幸子

